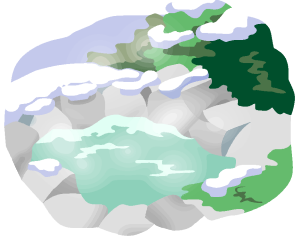


## 説教要旨「二匹の魚と五つのパン」



ルカによる福音書 9章10～17節

イエス様と一緒に食事をするということを大切にしておられたようで、福音書にはイエス様が食事する場面がたくさん描かれています。その中でもこの箇所はよく知られている場面で、5千人の共食とも呼ばれています。

イエス様は、イエス様のところにやってきた群衆に神の国について語り、治療が必要な人々を癒されました。そうこうしているうちに日没が近づいてきたので、弟子たちは群衆を解散させましょうと言うのですが、イエス様は彼らに食べ物をあたえるようにと命じます。そこには男性だけで五千人ほどいたにも関わらず、食べるものは2匹の魚と五つのパンしかありません。無茶振りに戸惑う弟子たちを尻目に、イエス様は二匹の魚と五つのパンをとって天を仰ぎ、賛美の祈りをささげると、それを裂いて弟子たちに渡して人々に配らせます。するとそこにいた全ての人が満腹になり、さらには余ったパン屑を集めると12籠にもなったと言うのです。

そもそもこのとき、イエス様は12人の使徒たちを連れて、自分たちだけで過ごそうとされていました。けれども人々は、イエス様の都合などお構いなしに、押しかけてきました。にもかかわらずイエス様は、人々を追い返すようなことはせず、神の国について語り、治療に必要な人々を癒されました。それだけでなく、集まったのが大群衆だったにも関わらず、彼らに食べるものを振る舞って彼らを養われました。それが、イエスという救い主の姿です。

イエス様の都合など関係無しに、神様の都合など関係無しに、自分の都合ばかりをイエス様に、そして神様に押しつけようとしてしまうわたしたちではないでしょうか。しかしイエス様は、そのように自分勝手なわたしたちを追い払うことなく、御言葉をもってわたしたちに道を示し、必要な癒やしを与え、そして日々養ってくださるのです。

イエス様はわたしたちを養うために、食卓へと招いて下さっています。イエス様によって養われ生かされている歩みにこそ、満ち溢れるほどの恵みが注がれ、本当の安心、平安が与えられていくのです。

(2023・2・19 説教者：稲垣真実)

